

- ピー コック
- メートル コック 取扱説明書
- ゲージ コック

株式会社 大成トータル

目 次

	ページ
1. まえがき	3
2. 仕 様	4
3. 取り付け	4
4. 操 作	5
5. 構 造	5
6. 保守・管理	6

1. まえがき

[ご使用に際して]

コック類を正しく有効にお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。

尚、この取扱説明書は弊社のコックの取扱いについて記載してありますが、全てを網羅するものではありませんので、この取扱説明書以外の事項につきましては、弊社までお問い合わせ下さい。

[製品の保証について]

保証期間内（お客様納入日より1年間）の納入品が、「弊社設計または製造上の不良等」による不適合品と判断された場合、無償にて修理、あるいは適合品との交換を致します。但し、以下に示す事項は除外されますのであらかじめご了承下さい。

- (1) 納入品がお客様自身若しくは弊社以外の第三者による分解、改造、部品交換、あるいは機能付加された場合。
- (2) 取扱説明書またはカタログに記載された事項が遵守されなかった場合。
- (3) 使用による劣化、天災、火災、その他不可抗力によるもの。
- (4) 上記を含む製品の故障または損傷等により発生した二次的損害。

尚、お客様による取扱不備の認識の有無に関わらず、部品の変形、摩耗、焼損等明白な痕跡が認められた場合は、保証範囲より除外し、有償対象とさせていただきますのでご了承下さい。

[安全用語の定義]

本書における安全上の注意事項について、次の定義により区分しています。



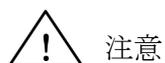
危険

回避しないと、死亡または重傷を招く切迫した危険な状況の発生が予見される場合。



警告

回避しないと、死亡または傷害を招く可能性がある危険な状況の発生が予見される場合。



注意

回避しないと、物的損傷が発生したり計器の性能が発揮できないような状態が予見される場合。

2. 仕様

	ピーコック		メートルコック		ゲージコック
材 質	真鍮 〔 C3771 〕	ステンレス 〔 SUS304 または SUS316 〕	真鍮 〔 C3771 〕	ステンレス 〔 SUS304 または SUS316 〕	ステンレス 〔 SUS304 〕
常用圧力(水圧)	0.5MPa	0.7MPa	0.7MPa	0.7MPa	2MPa
使用液体温度	常 温 (50℃まで)				
使用流体	水・エア (但し、蒸気は除く)				



危険

- ・ 最高使用圧力以上の圧力を加えないで下さい。
コックが破損または破裂し、けがや周囲を破壊する原因となります。
- ・ 接液部材を腐食・劣化させる測定体には使用しないで下さい。
コックが破損または破裂し、測定体が放出することにより けがや周囲を破壊する原因となります。
- ・ 使用温度範囲内でご使用下さい。
使用温度範囲外で使用されますとシール材リングの損傷(真鍮製のみ)、グリースが外部に融け出てし、シール性の低下や閉止の損傷を招き、コックが故障または破損し、けがや周囲を破壊する原因となります。



注意

- ・ 流体に金属粉、ゴミなどが混入していると 閉止ハンドルの開閉時 閉止に付着しキズが付き、シール性の低下や閉止の損傷を招き、コックが故障または破損し、けがや周囲を破壊する原因となります。

3. 取り付け

- (1) コックの配管側を配管に取り付けて、圧力計側に圧力計を取付けて下さい。
(5. 構造を御参照下さい。)
シール部には用途にあったパッキンを使用し、またテーパネジの場合はシールテープ等を巻いてシールさせて下さい。



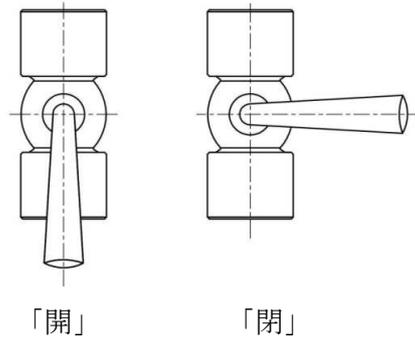
警告

- ・ シールが不十分ですと、ゲージバルブが外れたり、測定体が突出して けがや周囲を破壊する原因となります。

- (2) 圧力計を取り付ける際は、必ず専用のパッキンを使用し、ずれないように締付けて下さい。

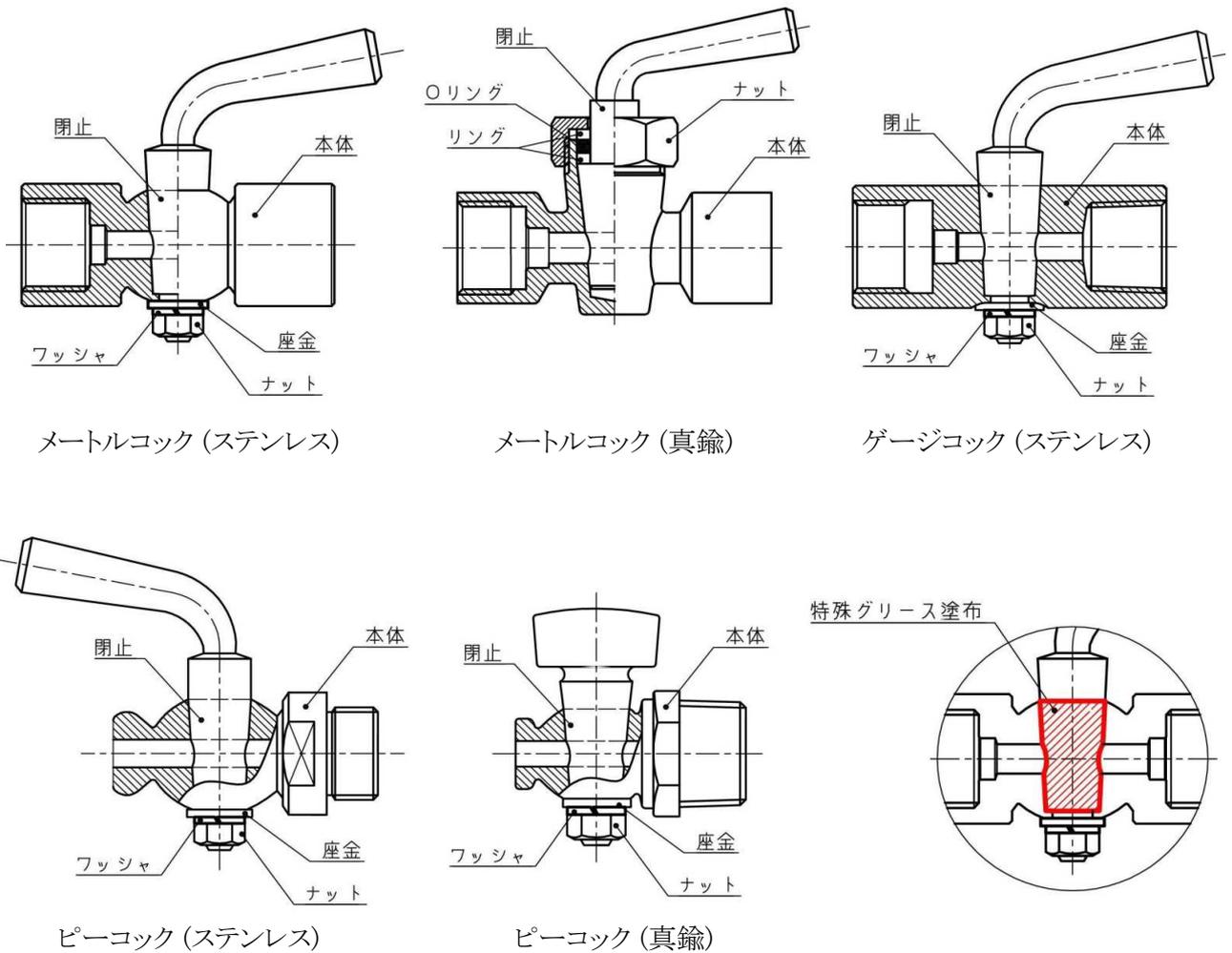
4. 操作

ハンドルの「開」、「閉」の位置は下図の通りです。
ハンドルの「閉」の位置で流体を遮断します。



5. 構造

概略構造は下図の通りです。





注意

- コック装着後、配管内に溜まった空気(残留エア)を抜く場合は、先に閉止を「開」の状態にしたうえで加圧するなどして残留エアを抜き取る様にして下さい。配管内が使用される流体で満たされたことを確認し、閉止を「閉」にして下さい。空気が溜まった状態で加圧をされますと閉止を「開」にした際に、グリースが放出されたりグリース層に空気の筋(通り道)ができ、シール性を損ねる場合があります。
- コックは、閉止に特殊グリースを塗布し、グリースにてシールしています。ゲージを取り外した状態で、配管内部の残圧を抜く場合には、閉止ハンドルを少し回し徐々に減圧を行って下さい。一気に減圧されますとグリースが放出されシール性の低下や閉止の損傷を招き、コックが故障または破損し、漏れの原因となります。
- 閉止を頻繁に開閉するとシール材であるグリース層に空気の筋ができ、シール性を損ねる場合があります。

6. 保守・保管

- (1) 接続部から漏れが生じた場合は、増し締めして下さい。
増し締めしても漏れが止まらない場合はパッキンを交換して下さい。
- (2) ハンドルを「閉」の位置にしても流体を遮断できない場合は、また閉止のOリング部から漏れが生じた場合は、ナットを増し締めして下さい。(真鍮製メートルコックのみ)
- (3) 閉止から漏れが発生した場合は、グリース層に空気の筋ができた可能性があります。
その場合は、閉止を少し回してグリースをなじませれば回復します。
- (4) 接続部および閉止からの漏れが止まらない場合や故障の際は、弊社営業部までご連絡下さい。